

あとがき

AFTERWORD

● 「深谷の次代を担う人を育てたい。」

「深谷から羽ばたきつつも、ふるさとに目を向ける人を育てたい。」

日本を代表する教育実践家である 東井義雄先生は、自身の著書「村を育てる学力」で、以下のようにならっています。

私は、村の子らを、もっともっと、かしこくしてやりたい。

子らが、もっともっと、かしこくなってくれば、子らのしあわせも、村のしあわせも、なりたちはしない。

でも、そのかしこさは、ふるさとのあるかしこさでなければならない。

そういうかしこさをもった子なら、「村の土」「国の土」を豊かなものにしてくれるだろうし、生まれてきてよかった、といえるような、生きがいのある人生を築いてくれるにちがいない、と思うのだ。

「ふるさと」での学びだからこそ、子供たちは生活や社会とのつながりを実感しながら、自分事として、主体的に学習に向き合うのではないのでしょうか。

大好きで、誇りに思う「ふるさと」の学びの中で、子供たちは自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、「ふるさとのあるかしこさ」という力を身に付けていくのではないのでしょうか。そして、その力は、ふるさとに貢献したいと思う気持ちであり、よりよい社会や幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な資質・能力であると言い換えられるのではないのでしょうか。

深谷で育ち、深谷で学び、「ふるさとのあるかしこさ」をもった人に深谷の未来を担ってほしい、また、たとえ他市町村や県外へ出ていったとしても、ふるさと深谷が拠り所となり、行った場所で地域社会を担い、生きがいを切り拓いてほしいと願っています。

今後も、そのような地域社会の将来を担う自覚をもった子供たちを育てるため、ふるさとにふれ、ふるさとを理解し、誇りに思う心や態度を育む「ふるさとふかや・渋沢学」を“オール深谷”で推進してまいります。

おすびに、たいへんご多用の中にもかかわらず、本フォーラムの開催にあたりまして、多岐にわたってご協力いただきました推進委員の方々、関係機関や地域の方々、市内各学校の先生方や児童生徒、学生並びに保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年11月

深谷市教育委員会